

I 調査結果概要

県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、持ち直しの動きがみられる。
先行きについては改善の動きがみられる。

- 経営者の景況感D Iは、▲47.1と、前期比で2.1ポイント減少し、2期ぶりに悪化した。業種別では、製造業は4期ぶりに悪化し、非製造業は2期ぶりに悪化した。
- 景況感の先行きD Iは▲15.7と、前回調査比で7.6ポイント増加し、3期ぶりに改善した。
- 売上げD I、資金繰りD I及び採算D Iは2期ぶりに悪化した。
- 設備投資の実施率は20.8%で、前期と同水準となった。
- 来期については、売上げD I、資金繰りD I及び採算D Iは当期D Iより改善する見通しである。また、設備投資の実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、D Iを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和4年10～12月期、「当期」：令和5年1～3月期、「来期(先行き)」：令和5年4～6月期

1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感D Iは▲47.1となり、2期ぶりに悪化した。前期比で2.1ポイント減少し、前年同期比では7.4ポイント増加した。

業種別にみると、製造業(▲49.3)は4期ぶりに悪化し、非製造業(▲45.4)は2期ぶりに悪化した。

<景況感D Iの推移>

	当期 (R5.1-3)	前期 (R4.10-12)	前年同期 (R4.1-3)
全体	▲47.1	▲45.0	▲54.5
製造業	▲49.3	▲44.7	▲51.6
非製造業	▲45.4	▲45.1	▲56.7

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は9.2%（前回調査(R4.10-12月)比+2.5）、「悪い方向に向かう」とみる企業は24.9%（前回調査比▲5.1）だった。

先行きD Iは▲15.7（前回調査比+7.6）と、3期ぶりに改善した。

<来期の見通し>

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きD I (R5.4-6)
全体	9.2%	24.9%	▲15.7
製造業	8.4%	25.7%	▲17.3
非製造業	9.8%	24.3%	▲14.5

2 売上げについて

売上げD Iは▲27.0（前期比▲18.6）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (R5. 1-3)	前 期 (R4. 10-12)	前年同期 (R4. 1-3)	来期見通し (R5. 4-6)
全 体	▲27.0	▲8.5	▲37.0	▲10.3
製 造 業	▲29.3	▲4.6	▲33.3	▲11.7
非製造業	▲25.3	▲11.5	▲39.8	▲9.3

3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲25.5（前期比▲4.7）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより改善する見通しである。

〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (R5. 1-3)	前 期 (R4. 10-12)	前年同期 (R4. 1-3)	来期見通し (R5. 4-6)
全 体	▲25.5	▲20.8	▲31.7	▲18.1
製 造 業	▲26.6	▲20.3	▲29.7	▲19.9
非製造業	▲24.6	▲21.2	▲33.2	▲16.7

4 採算について

採算D Iは▲36.4（前期比▲5.6）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

〈採算D Iの推移〉

	当 期 (R5. 1-3)	前 期 (R4. 10-12)	前年同期 (R4. 1-3)	来期見通し (R5. 4-6)
全 体	▲36.4	▲30.8	▲42.6	▲20.7
製 造 業	▲37.6	▲32.5	▲39.2	▲22.2
非製造業	▲35.5	▲29.4	▲45.2	▲19.6

5 設備投資について

実施率は20.8%となり、前期と同水準となった。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業は4期ぶりに減少し、非製造業は2期ぶりに増加した。

来期については、製造業は当期の実施率より増加し、非製造業は減少する見通しである。

〈設備投資の実施率〉

	当 期 (R5. 1-3)	前 期 (R4. 10-12)	前年同期 (R4. 1-3)	来期見通し (R5. 4-6)
全 体	20.8%	20.8%	19.3%	20.3%
製 造 業	24.5%	25.3%	22.1%	26.3%
非製造業	18.0%	17.2%	17.2%	15.8%

6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP13以降を御覧ください）

【現在の景況感】

- （一般機械器具）・半導体関連の売上高、受注高ともに落ちており、不況である。
- （輸送用機械器具）・既存製品取引は安定しているが、新規の受注が低調のため、景況感は普通である。
- （プラスチック製品）・オフィス向け建築需要が落ち着いており、景況感は普通である。
- （食料品製造）・売上高は回復しているが、原材料費が高騰しており、景況感は普通である。
- （印刷業）・コロナ禍の前年に比べれば景況感は改善しており、普通である。
- （百貨店）・行動制限の緩和で化粧品、バッグの売上が好調に推移しており、好況である。
- （商店街）・昼間の来街者は増えてきたが、夜の客足が戻らず、景況感は若干不況である。
- （建設業）・民間事業者の設備投資が増えており、好況である。

【売上げ・採算】

- （電気機械器具）・5G関連の落ち込みが大きく、売上高は減った。
- （金属製品）・半導体関連の売上高は前年比50%減少した。
- （食料品製造）・原材料費高騰に対応し利幅の良い商品を増やしたため、全体ではほとんど変わらない。
- （印刷業）・資材価格高騰の影響で収益性は落ちている。
- （スーパー）・物価高騰の影響で消費マインドが低下しており、売上高は減少した。
- （情報サービス業）・外注費含め人件費の負担が大きくなり、採算性は悪化した。

【今後の見通し】

- （一般機械器具）・半導体関連の回復は秋以降とみられ、当面は悪い方向に向かう。
- （輸送用機械器具）・自動車の生産回復は時間を要するが、新規取引が増えており、良い方向に向かう。
- （食料品製造）・受注は回復しているが、卵不足の長期化懸念があり、どちらともいえない。
- （銑鉄铸件）・自動車の生産調整は続いており、どちらともいえない。
- （商店街）・観光客はこれから本格的に戻ってくる見通しであり、良い方向に向かうとみている。
- （旅行業）・行動制限の緩和で団体旅行の問い合わせが増えており、良い方向に向かう。
- （建設業）・コロナ禍で止まっていた開発関係が動き出しており、良い方向に向かうとみている。